

平成 30 年度吹田市ケアネット実務者懇話会作業部会の報告について

(2) 医療機関と地域連携のルールづくり

1 活動目的

医療・介護関係者等が情報を共有し、切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築を図るための具体的な手段を検討する。

2 構成員

事務局：地域包括支援センター

作業部会員：医療機関地域連携担当、居宅介護支援事業者、訪問看護事業者、訪問介護事業者

3 平成 30 年度の取組

(1)「大阪府入退院支援の手引き」の普及やこれまでの成果物である吹田市版の入退院支援ツールの見直し、「大阪府入退院支援の手引き」の帳票の活用を検討した結果、

- ・利用者情報提供書は、現行の書式継続活用。
- ・「介護保険の居宅サービスを利用される方の入院から退院までの支援フロー図」
→「大阪府入退院支援の手引き」(P.9 工程表)活用
- ・「入院・退院支援にかかる診療報酬および介護報酬」
→「大阪府入退院支援の手引き」(P.29～37 入退院時連携に係る診療・介護報酬)を活用し、周知していく。

(2)「退院時カンファレンスチェックシート」の活用状況の把握のためアンケートを実施。

4 作業部会について

平成 30 年 9 月 19 日(水)

平成 30 年 11 月 13 日(火)

平成 31 年 1 月 13 日(火)

5 平成 31 年度の活動方針

引き続き「大阪府入退院支援の手引き」の普及を行う。吹田市版の退院支援ツール(利用者情報提供書、退院前カンファレンスチェックシート)の活用促進を図ると共に、市内の病院の外来患者で、支援が必要と思われる高齢者について、情報共有するための連携ツール(たとえば済生会吹田病院の外来看護サマリー)の検討を行い、在宅生活が続けられるよう日頃から連携を図っていく。